

地方創生関連施策を活用した事業の実施状況の報告及び検証について

- 地方版総合戦略の取組を国が支援するために創設したデジタル田園都市国家構想交付金については、本市も積極的に活用することとし、令和6年度は以下の事業を実施しました。
- これらの取組は、事業終了後の検証・評価を行うことが必須とされ、検証・評価に当たっては、**外部有識者の意見を聴取すること**とされています。
- そのため、各事業の令和6年度の実績を皆様に御報告の上、御意見を伺い、評価・検証の上、今後の事業の推進の参考にさせていただきます。

(単位:千円)

申請/採択年度	国提出事業名	所管部局	市予算事業名	R6年度申請額 交付金対象部分			R6年度実績額 交付金対象部分				
				事業費 (対象部分)	国費	一般財源他	事業費 (対象部分)	国費	一般財源他		
令和6年度 事業	「食の実験区、旭川」 未来の食文化を創造 する街プロジェクト (R6-8)	経済部	(新)創造拠点運営事業費	10,400	5,200	5,200	9,646	4,823	4,823		
			戦略的国内外市場開拓推進費	8,530	4,265	4,265	8,528	4,264	4,264		
			大阪関西万博共創パートナー事業費	6,000	3,000	3,000	5,998	2,999	2,999		
	令和6年度事業合計			24,930	12,465	12,465	24,172	12,086	12,086		
令和3年度 継続事業	新時代に飛躍する 新・大雪圏域観光振興プロジェクト～都市と自然、仕事と遊びを繋ぐシームレスな観光地づくりの推進～ (R3-R7)	観光スポーツ部	旭川観光コンベンション協会補助金	2,000	1,000	1,000	2,000	1,000	1,000		
			大雪カムイミントラDMO推進費	30,504	15,252	15,252	30,504	15,252	15,252		
			観光プロモーション推進費	4,000	2,000	2,000	4,000	2,000	2,000		
			観光情報発信費	3,000	1,500	1,500	3,000	1,500	1,500		
	小計			39,504	19,752	19,752	39,504	19,752	19,752		
	ものづくり企業のデザイン力向上による持続可能な都市創造プロジェクト (R2-R6)	経済部	家具等国内外販路拡大支援費	3,000	1,500	1,500	0	0	0		
			地場産品開発・販路拡大支援費	12,039	6,020	6,019	11,810	5,905	5,905		
			食品産業支援費	2,600	1,300	1,300	2,600	1,300	1,300		
			デザイン推進事業費	22,619	11,309	11,310	22,572	11,286	11,286		
			旭川工芸技術等継承事業費	1,000	500	500	629	314	315		
			ユネスコ創造都市ネットワーク連携費	0	0	0	0	0	0		
			スタートアップ伴走支援費	5,972	2,986	2,986	5,926	2,963	2,963		
			(新)創造拠点運営事業費	9,162	4,581	4,581	9,162	4,581	4,581		
			若者地元定着促進費	5,113	2,556	2,557	5,076	2,538	2,538		
			戦略的国内外市場開拓推進費	2,400	1,200	1,200	2,196	1,098	1,098		
			小計			63,905	31,952	31,953	59,971	29,985	29,986
			令和3年度継続事業合計			103,409	51,704	51,705	99,475	49,737	49,738
令和2年度 継続事業	青少年ICTパークプロジェクト～eスポーツをきっかけにIT人材の育成と中心市街地の賑わい創出～ (R2-R6)	経済部	ICTパーク運営費	24,000	12,000	12,000	24,000	12,000	12,000		
				令和2年度継続事業合計			24,000	12,000	12,000	24,000	12,000
総合計				152,339	76,169	76,170	147,647	73,823	73,824		

※端数の関係で若干のずれ有

地方創生関連交付金事業に係る事業実施結果報告(案)

No	①国提出事業名					②実施計画期間 (R6年度の実施年数)	
1	「食の実験区、旭川」未来の食文化を創造する街プロジェクト(R6-8)					R6年度～R8年度 (1年度目)	
③全体概要							
本市は、豊かな自然がある北海道の中心にあり、道北主要自動車道の交差点であり、貨物輸送を担う「旭川空港」や水産・青果・畜産のフルカテゴリーの卸売市場を有することから、当市には、北海道中の新鮮な農畜産物・海産物が集積される。単に最先端技術を駆使した加工食品を作るだけではなく、昔からある土着の食を軸に、素材の価値を引き出す＝食のデザインができる街として「Made in Asahikawa」から「Designed in Asahikawa」にシフトし、旭川産全体の価値向上(付加価値の向上、新たな体験、世界に発信)により、食のクリエイター(コーディネーター)が世界中から集まり、未来の食文化を創造する都市を目指す。							
④市予算事業(令和6年度)							
事業名	概要	主な事業実績	予算額		実績報告		
			予算額	(うち交付金見込)	実績額(対象分、R7.3実績)	(うち交付金見込)	
(新)創造拠点運営事業費	市民や企業・団体、クリエイターなど様々な人が集まる拠点を活用し、新たなプロジェクトを創出するための拠点運営を行う。	・宮下通11丁目にあるデザインギャラリーを拠点とした事業 デザインギャラリー利用 イベント利用(64回 参加6,544人) ミーティング(36回 参加145人) コワーキング(4回 参加4人)	10,400	(5,200)	9,646	(4,823)	
戦略的国内外市場開拓推進費	地場産品の国内外における新たな市場開拓を推進するため、国内外の各種物産展・展示会への出展支援や道外道の駅との物産交流事業などを実施する。	・道外の量販店・セレクトショップとのネットワークを構築し、テスト販売の機会を提供 取引件数:8件 ・国内外の多様な市場との商談機会を創出 商談事業実施数:24件	8,530	(4,265)	8,528	(4,264)	
大阪関西万博共創パートナー事業費	2025年大阪・関西万博に向けて、旭川発の「デザインの力」で地域課題に取り組むプロジェクトを実施する。	・主な取り組み 令和6年6月19日(水)～20日(木)に本市の林業やデザイン等に関する「WOODS & DESIGN」フィールドワーク及びトークセッションの実施。 フィールドワーク参加者…17名 トークセッション参加者…約80名	6,000	(3,000)	5,998	(2,999)	
合 計 (うち交付金対象)			24,930 (12,465)		24,172 (12,086)		
⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)					⑥本事業終了後における実績値		
指標名(旭川市関係分)		基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果
指標①	地域における青果物販売額	1,611	1,616	百万円	R7.3月	1,736 (R7.3月)	地方創生に効果があった すべての指標において目標を達成した。令和6年度においては、「食の実験区」形成の第一歩として、「朝のあさひかわ」プロジェクトを中心に、地域資源を活かした体験創出と情報発信に取り組んだ。食関連の民間事業者、飲食店、生産者団体、宿泊施設等との連携が拡大し、食材提供から商品開発、朝食提供までのプロジェクトが複数立ち上がった。地元農産物・加工品を活用した朝食メニューや商品パッケージの試作が行われ、観光拠点やイベントでの試験提供につながった。朝食イベント等を通じ、地元市民や観光客が新たな食体験に参加。定性評価では満足度85%以上と高評価を得た。 これらの取り組みにより、旭川の強みを活かした食の価値創出に資する基盤整備が実現した。
指標②	事業により生まれた商品・メニュー・サービスの売上	0	25,000	千円	R7.3月	27,500 (R7.3月)	
指標③	旭川で観光客の滞在中の旅行消費額	54.7	57.7	千円／人	R7.3月	79.4 (R7.3月)	
指標④	事業に参画する事業者数	0	10	人	R7.3月	56 (R7.3月)	
⑦外部有識者からの評価(案)							
事業の評価		外部有識者からの意見(案)					
総合戦略のKPI達成に有効であった		KPIを達成したことから事業が有効であると言える。人口減少が想定される中で、旭川市の食関連産品の価値向上は、地域経済の活性化を図る上で重要であることから、今後も継続的に取り組む必要がある。					
⑧実績値を踏まえた事業の今後について							
今後の方針		今後の方針の理由					
事業の継続 (計画通りに事業を継続する(または、概ね同内容で継続する))		今後は、本事業で構築したネットワークとノウハウを基盤に、①朝食をテーマとした食の実験場での事業化支援の拡充、②市民や観光客が主体的に関わる食体験の開発、③域外市場を見据えたプロダクト開発と販売促進を推進する。これにより、地域資源の埋もれた価値を掘り起こすとともに、食に関わる若者やクリエイターが活躍できる魅力ある就業環境を創出し、人口流出の抑制と産業の稼ぐ力向上につなげる。さらに、デジタル技術の活用を通じたマーケティングや業務効率化も強化し、食関連産業の自走化と地域経済の持続的発展を目指す。テスト販売や商談機会を創出させることは、事業の実践の場として必要であり、今後も概ね同内容で継続する。					

地方創生関連交付金事業に係る事業実施結果報告(案)

No	①国提出事業名	②実施計画期間 (R6年度の実施年数)					
2	新時代に飛躍する新・大雪圏域観光振興プロジェクト ～都市と自然、仕事と遊びを繋ぐシームレスな観光地づくりの推進～	R3年度～R7年度 (4年度目)					
③全体概要							
本圏域が持つ都市機能と自然の調和、明瞭な四季といった様々なコンテンツを生かし、Withコロナ、Afterコロナを見据え、通年で各種スポーツや農村・自然・文化など屋外を中心に多様な体験をするアドベンチャートラベルの充実を図るとともに、家具産業や農業、食産業と連携した取組みにより家族や少人数の旅行など多様な観光需要への対応や商品の高付加価値化に取り組み、「稼ぐ」観光地域づくりを進めることで、本圏域に人を呼び込み、地方創生の実現を目指す。							
④市予算事業(令和6年度)							
事業名	概要	主な事業実績	予算額		実績報告		
			予算額	(うち交付金見込)	実績額(対象分、R7.3実績)	(うち交付金)	
旭川観光コンベンション協会補助金	観光関連団体との連携により、オール旭川体制の充実を図り、本市の観光振興に資するべく、一般社団法人旭川観光コンベンション協会へ補助金を交付する。	○学会会議や企業ミーティングを誘致するための開催支援補助の実施7件	5,200	(2,600)	2,000	(1,000)	
大雪カムイミントラDMO推進費	滞在型・通年型観光の促進に向けたマウンテンシティリゾートの形成を推進し、スキー場を核とした冬季観光促進事業、マーケティング調査及び各種モデル事業等を実施する(一社)大雪カムイミントラDMOを支援する。	○本事業を推進するための専門人材及びコーディネーターの配置 ○AT、着地型観光、ワーケーション等の商品造成及び販売体制の強化・充実 ○アクティビティセンターの運営・機能強化 ○圏域の観光案内を行うガイド育成講座の開催 ○観光商品の開発・販売を行うコーディネーターの研修派遣	30,504	(15,252)	30,504	(15,252)	
観光プロモーション推進費	経済発展とまちづくりに向けた本市の交流人口増大を図るため、他地域と連携しながら、観光客及び航空路線の誘致宣伝活動を推進する。	○航空会社と連携した国内外の個人旅行者向け誘客促進事業の実施 ○個人旅行者の広域周遊観光を促すための商品造成	4,000	(2,000)	4,000	(2,000)	
観光情報発信費	観光入込客数及び観光客宿泊数の増加を図るため、本市の知名度の向上及びイメージアップを図るとともに、観光客誘致に係る地域観光資源等の情報発信を様々な媒体を利用して実施する。	○新たな着地型観光商品などを紹介するガイドマップ及びWeb版マップの作成	3,000	(1,500)	3,000	(1,500)	
合 計			42,704	(21,352)	39,504	(19,752)	
⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)			⑥本事業終了後における実績値				
指標名(旭川市関係分)		基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果
指標①	DMO圏域観光宿泊延数	530	2,003	千泊	R7.3月	2,100 (見込値)	<p>地方創生に効果があった</p> <p>指標①において目標値を達成し、各種事業による効果が反映しているものとする。</p> <p>指標②については、富裕層が多い米・豪からの観光客増加の要因により、目標値には達していないものの、基準値と比較して数値が伸びていることから、アドベンチャートラベル等の商品造成や多方面へのプロモーション等による効果があったものとする。</p> <p>指標③についても、国際会議の増加等により、目標値には達していないものの、基準値と比較して数値が伸びていることから、MICE誘致のための支援による効果があったものとする。</p> <p>今後は指標の達成に向け、引き続き大雪カムイミントラDMOを中心として、旅行消費が旺盛な欧米豪などを対象とした、長期滞在に繋げるコンテンツ造成、誘客プロモーションの実施やMICE誘致の取組を継続する。</p>
指標②	一人当たり旅行消費額	33	120	千円/人	R7.3月	71	
指標③	企業研修、ワーケーション、学会会議、教育旅行等の実施数	64	199	件	R7.3月	68	
指標④							
⑦外部有識者からの評価(案)							
事業の評価				外部有識者からの意見(案)			
総合戦略のKPI達成に有効であった				これまでDMOをはじめとして実施してきた商品造成、販売体制の充実やガイド育成などの事業を検証・発展させるとともに、広く周知を図ることで、観光客の増加につなげる必要がある。			
⑧実績値を踏まえた事業の今後について							
今後の方針				今後の方針の理由			
事業の継続 (計画通りに事業を継続する(または、概ね同内容で継続する))				訪日外客数の増加に伴い、本圏域における観光客数もコロナ禍からの回復傾向が加速している現状から、KPIの達成を目指すため、引き続き、欧米豪をはじめとしたアドベンチャートラベルを志向する国内外観光客やMICEの誘致、稼ぐ観光地域づくりに向けた高付加価値化商品にまつわる取組をより一層推進する。			

企業版ふるさと納税活用事業に係る事業実施結果報告(案)

No	①国提出事業名		②実施計画期間 (R6年度の実施年数)			
3	ものづくり企業のデザイン力向上による持続可能な都市創造プロジェクト		R2年度～R6年度 (5年度目)			
③全体概要						
本市は北北海道の中核都市であり、豊富な農畜産物や海産物、木材等の物流拠点となっていることを背景として、家具・木製品、機械金属、食品加工など多様なものづくり企業が集積している。特に、家具・木製品の分野では「国際家具デザインフェア旭川」や「旭川デザインウィーク」などデザインをテーマとした取組を長年行っており、令和元年10月には、国内3都市目となる「ユネスコ創造都市ネットワーク」のデザイン分野での加盟認定を受けたところである。今後、本市に集積しているデザインのノウハウを地域の強みとして、消費者ニーズの把握や商品開発、人材育成等における旭川企業へのデザイン経営の導入促進や、市民に向けたデザインの普及を図ることで地域産業の活性化やデザイン都市としての魅力向上を図っていく。						
④市予算事業(令和6年度)						
事業名	概要	主な事業実績	予算額		実績報告	
			予算額	(うち交付金見込)	実績額(対象分、R7.3実績)	(うち交付金)
戦略的国内外市場開拓推進費	地場産品の国内外における新たな市場開拓を推進するため、国内外の各種物産展・展示会への出展支援や道外道の駅との物産交流事業などを実施する。	・道外道の駅との物産交流を始め、域外からの稼ぐ力の強化を図った。 ・交流道の駅数 22駅 ・その他域外取引先件数 7件 ・取引額 約1,500万円	2,400	(1,200)	2,196	(1,098)
家具等国内外販路拡大支援費	首都圏で開催される展示会への出店や国内外バイヤー、メディアに対するPR・招へい活動を支援するとともに、「クラフトマップ旭川」のデータ更新、配布を行うことにより、木製品産業の販路開拓・拡大を図る。	予定していた展示会への出展取りやめにより全額不執行	3,000	(1,500)	0	(0)
地場産品開発・販路拡大支援費	中小企業の新製品開発・研究や販路開拓の支援等の実施により、生産、販売、収益の拡大を通じて、域外からの外貨獲得を目指し、地域経済の活性化及び雇用の拡大を図る。	中小企業の新製品開発や販路開拓の支援を行ったほか、道外展示会への出展や地域連携による新ビジネス新製品創出推進プロジェクトを実施した。 ・旭川ものづくり支援補助金 採択10件 ・出展展示会 ギフトショー	12,039	(6,020)	11,810	(5,905)
食品産業支援費	本市の基幹産業である農業と食品加工業の連携によって、地場農産物等を活用した付加価値の高い、市場競争力のある加工食品の開発を促進し、地域経済を活性化させるため、地域関係機関と連携した支援体制(食品産業支援センター)を構築し、加工食品開発事業を推進する。	一般的な衛生管理に関する相談や食品試験を通じた商品開発をはじめ、中小企業の高齢者や健康意識の高い層向け商品の販売促進を支援した。 ・商品開発件数 2件 ・商品開発に係る相談件数 336件 ・食品試験の実施 402検体、658項目 ・出展展示会 第38回北海道ビジネスEXPO 2社出展(㈱ニッポン 金のアマニ関連)	2,600	(1,300)	2,600	(1,300)
デザイン推進事業費	国を中心にデザイン経営を導入する動きが加速しており、本市としても、中小企業がデザイン視点を取り入れ、新しい価値創出に繋げるため、デザインを学び、触れ、つくる機会の創出を進めるとともに、デザイン経営による地域課題の解決に繋げる人材育成事業などを実施する。	中小企業がデザイン視点を取り入れ、新しい価値創出につなげる稼ぐ力を強化するための支援を実施した。また、子ども達のデザイン教育のため、小学校高学年、高校生向けのデザイン授業を開催した。 ・デザインプロデューサー事業(18回 参加者:企業6社、市役所新人研修) ・キッズデザイン出前講座(3回 参加者数81人) ・大学×民間企業 連携事業(2回 参加者26人) ・デザイン経営セミナー(8回 参加者数545人) ・ADW関連イベント(10回 約13万人)	22,619	(11,309)	22,572	(11,286)
旭川工芸技術等継承事業費	木製品や窯業製品製造の次代のものづくりを担う人材の育成を図るため、道内外・旭川地域の熟練技術者や有識者と連携し、製造に関する優れた技術・技能の継承とデザインから要素技術まで幅広く視野に入れた研修(座学・実習・市民向け講習会)を行う。	熟練技術者や工芸センター職員等が講師となり、機械操作や製造技術、関連知識の習得等のための講習会を開催した。 ・木製品実習(機械操作、塗装) ・窯業実習(石膏型製作) ・座学(接着、釉薬、旋盤、技能五輪) 全7コース 170名参加	1,000	(500)	629	(314)

若者地元定着促進費	ものづくり産業を担う人材の養成及び業界理解を深めるため、市内近郊の高校生をメイン対象としたインターンシップ等を実施する。	地域企業を訪問しインターンシップを実施するとともに、参加校が実施する事前事後学習の支援を実施した。 ・事業参加校(生徒数) 4校(674名)	5,113	(2,556)	5,076	(2,538)	
ユネスコ創造都市ネットワーク連携費	ユネスコ創造都市ネットワークの連携効果を最大限発揮させるため、デザイン都市等と連携し、デザインを活用した豊かな創造性あふれる魅力的なまちづくりを進める。	「ユネスコ・デザイン都市旭川」を推進し、ユネスコ創造都市ネットワーク加盟認定都市との連携の効果を最大限発揮させるため、デザインで豊かな創造性あふれる魅力的なまちづくりを目指す。 ・ユネスコ創造都市ネットワーク会議(旭川開催) 参加世界21か国から48人	0	(0)	0	(0)	
スタートアップ伴走支援費	スタートアップ事業者の各段階のニーズに合わせた伴走的・連続的なフォローアップを行い、ビジネスプランの質向上や起業後の早期の経営安定化を図る。	(一財)旭川産業創造プラザに業務委託を行い、各種セミナーや講習会などを実施した。 ・あさひかわBizcafeの実施 12回 ・各種セミナー、研修会等の実施 5回 ・新ビジネス相談件数 171件 市内で起業・創業する事業者の新たな商品・サービスの開発、販路開拓に関する取組への支援を行った。 ・旭川市スタートアップ支援補助金 8件	5,972	(2,986)	5,926	(2,963)	
(新)創造拠点運営事業費	市民や企業・団体、クリエイターなど様々な人が集まる拠点を活用し、新たなプロジェクトを創出するための拠点運営を行う。	市民や企業が集まりやすい拠点づくりを目指し、イベント、ミーティング、コワーキングでの貸出を行った。 令和6年デザインギャラリー利用実績 ・イベント 64回 参加者約6,500人 ・ミーティング 37回 参加者 約160人 ・コワーキング 4回 参加者 4人	9,162	(4,581)	9,162	(4,581)	
合 計			63,905	(31,952)	59,971	(29,985)	
⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)			⑥本事業終了後における実績値				
指標名(旭川市関係分)		基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果
指標①	デザイン経営実践企業数	0	150	社	R7.3	133	地方創生に効果があった 指標③、④について、目標値を達成したが、指標①、②は未達成となっている。累計値目標であることから、特に海外進出企業数はコロナ禍による影響が原因の一つとして考えられる。 地域におけるデザイン経営(思考)の普及・定着を推進する取組として、重層的な支援を展開し、民間企業の意識改革や事業転換を図った。中小企業がデザイン経営に基づく新製品開発やブランド強化に取り組み、国外を始め、新たな販路を獲得。デザイン人材・経営者・学生を対象としたセミナー等により、デザイン思考の地域浸透を実現した。旭川地場産業振興センター等の商社機能の強化を通じて、企業支援・販路拡大の体制も整備されたほか、シビックプライドの醸成、関係人口の増加にも一定の成果が見られた。 今後は指標達成に向け、周知や機会創出に取り組む。
指標②	本事業を通じた海外進出企業数	0	150	社	R7.3	87	
指標③	デザインプロデュース及びデザイン経営に関わるセミナーの参加者数	0	18,500	人	R7.3	18,607	
指標④	デザイン経営を実践する企業の新製品開発件数	0	120	件	R7.3	121	
⑦外部有識者からの評価(案)							
事業の評価			外部有識者からの意見(案)				
総合戦略のKPI達成に有効であった			本市の特徴あるまちづくりとして、デザインを核とした産業振興を図るとともに、普及啓発によりデザイン思考が市民生活に取り入れられることで、デザイン都市旭川としてのシビックプライドの醸成やイメージアップにもつながることから、引き続き取り組む必要がある。				
⑧実績値を踏まえた事業の今後について							
今後の方針			今後の方針の理由				
事業の継続 (計画通りに事業を継続する(または、概ね同内容で継続する))			今後は、自走化を視野に入れた外部資金等による持続可能な財源構築や、販路開拓支援の一体的な支援体制の検討、ユネスコ創造都市間の国際連携を含めたデザイン人材等の連携による事業開発などにより、デザインを軸とした中小企業支援と人材育成の取組を発展させ、持続可能な地域経済の実現を推進する。				

企業版ふるさと納税活用事業に係る事業実施結果報告(案)

No	①国提出事業名	②実施計画期間 (R6年度の実施年数)				
4	青少年ICTパークプロジェクト～eスポーツをきっかけにIT人材の育成と中心市街地の賑わい創出	R2年度～R6年度 (5年度目)				
③全体概要						
<p>本市の中心市街地には中高生、大学生等の若者やインバウンドを始めとする来訪者の滞在場所が少ないことや、プログラミング教育の開始に伴い、学校外でICTに触れ関心を持ち、親しむ場や機会が必要なこと、AIやIoTによる技術革新を踏まえた企業誘致や産業支援などへの対応が求められていることから、新たにICTパークを設置し、eスポーツを核とした中心市街地の賑わい創出や、Society5.0やAI、IoT社会の到来に対応していくためのICT人材の育成、地域産業支援に関する実践的な取組の推進などを、産学官の連携により実施することで、新たな価値を創出し地域の活性化を図っていく。</p>						
④市予算事業(令和6年度)						
事業名	概要	主な事業実績	予算額		実績報告	
			予算額	(うち交付金見込)	実績額(対象分、R7.3実績)	(うち交付金)
ICTパーク運営費	eスポーツを核とした中心市街地の賑わい創出とSociety5.0やAI、IoT社会の到来に対応していくためのICT人材の育成を目的に、eスポーツのトレーニングジムやプログラミング的思考体験ができる施設を運営する。	<ul style="list-style-type: none"> ○ eスポーツを核とした賑わい創出(主な事業) <ul style="list-style-type: none"> ・STAPARK(スタパーク) ・eスタジアム泉佐野(大阪府泉佐野市)とオンラインで会場を繋ぎ、2拠点で実施したeスポーツ交流会・ファンミーティングイベント。 参加・来場者 138人 ○ プログラミング的思考体験の推進(主な事業) <ul style="list-style-type: none"> ・ICTパークアカデミー特別講座(全8回) 参加・来場者 121人 ・Asahikawa GAME CREATORS CAMP 参加・来場者 1,032人 ・KOSEN Labo in ICTパーク(全9回) 参加・来場者 102人 ○ その他の主な事業 <ul style="list-style-type: none"> ・地域課題解決アイデアコンテスト ・視察・教育旅行受入 18件 	24,000	(12,000)	24,000	(12,000)
合 計			24,000		24,000	(12,000)
⑤本事業における重要業績評価指標(KPI)				⑥本事業終了後における実績値		
指標名(旭川市関係分)	基準値	目標値	単位	目標年月	最新値	事業効果
指標① 情報通信業就職者数	0	32	人	R7.3	16	<p>地方創生に効果があった</p> <p>各指標が累計値目標であるため、新型コロナウイルスによる行動制限等の要因等により未達成であった。</p> <p>本事業は、大雪カムイミントラDMOが主体となり、産学官が連携して、eスポーツを核とした各種イベントの開催やデジタル人材の育成に向けたプログラミング教室等を開催しておりデジタル技術に気軽に触れ、デジタル人材の裾野拡大を図る取組から、ゲーム開発や人材発掘の取組まで、幅広く実施しており、本市のデジタル人材の育成の一助となっている。また、ICTパークへの集客により中心市街地の賑わいづくりにもつながっている。</p> <p>今後は指標の達成に向け、引き続き中心市街地の活性化やデジタル人材の育成を推進していく。</p>
指標② 企業立地件数	0	34	件	R7.3	13	
指標③ 観光宿泊延数	1,083	1,300	千泊	R7.3	1,032	
指標④						
⑦外部有識者からの評価(案)						
事業の評価			外部有識者からの意見(案)			
総合戦略のKPI達成に有効であった			中高生や大学生等の若者が集まりやすい中心市街地において、eスポーツを通じた賑わいの創出やプログラミング技術に触れることにより将来のICT人材を育成することに資すると考えられるので、今後もさらなる施設の活用を図る必要がある。			
⑧実績値を踏まえた事業の今後について						
今後の方針			今後の方針の理由			
事業の継続 (計画通りに事業を継続する(または、概ね同内容で継続する))			急激に回復する観光ニーズ、学校でのプログラミングの必修化による学校以外の場でのプログラミング教室等の需要、学校でのeスポーツ活用の増加等に対応するため、これまでの取組やその効果を踏まえながら、引き続き、ICTパークを活用した中心市街地の活性化やデジタル人材の育成を推進していく。			